

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の再確認を行いながら、携わっている	玄関を入ると墨書による理念の掲示がすぐ目に入る。事務室にも掲げられており職員への周知徹底を図っている。職員会議のたびに理念にふれ、話し合っている。職員は理念を自分なりの言葉で理解しており、実践に移している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の一員として催し物や各種行事に参加し、交流を深めている。	地区の準会員として地域の作業や行事などの情報が届くので積極的に参加し交流を図っている。夏祭りの花火会場がホームの前の広場に設置されるため、住民にホームの駐車場を開放している。地区の文化祭には入居者の作品を出品している。	開設3年目ということや立地条件のこともあるが、村や運営推進会議の協力を得ながら地域・学校行事などの機会をとらえ、更に地域の人々と交流する機会をつくられることを望みます。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今後、認知症についての理解を深めてもらえるよう、勉強会等開催したい		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域からデイサービスを提供してほしいとの要望がある。今後の課題として検討したい。	施設見学、ホームの状況報告やメンバーとの質疑応答、消防署員を講師に救命講習会などを兼ねて開催するなど工夫を凝らしている。メンバーの都合に合わせて土曜日・日曜日で日程調整し、今年度に入ってから2回実施した。	会議には可能な限り地区代表の方に参加していただき、メンバーが欠席する場合には前もって意見を頂くなどして内容が伴った有意義な会議として運営されることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	村役場福祉課の方を運営推進会議のメンバーに入ってもらい、意見交換をしている	今年度、村の都合で担当者の異動があったが、担当部署とは何でも気軽に相談できている。ベッドが必要となった場合に不要ベッドの相談を同じ地域の施設の担当者と相談したこともあり、また村の相談員とは入居者の相談事など適宜連絡を取り合っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修を実施し、全職員が正しく理解しケアに取り組むよう努めている	職員は拘束に関して正しく理解しており拘束の弊害についても認識している。離設した入居者を警察や住民の協力のなか無事発見したこともある。現在は行動パターンを分析し、夕方の行動に対し毎日の散歩やドライブで気分転換を図り鍵を掛けないケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する研修を実施し、特に心理的虐待(言葉によるもの)に注意を払うよう努めている		

グループホーム大地

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後研修会を開催し勉強していきたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居だけでなく面会の際にも家族の要望を伺い、サービスの向上を目指している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や相談窓口を設け、いつでも対応できるようにしている	家族会は設立されていない。面会時や来訪時には積極的にホームでの様子を伝えながらコミュニケーションを取り、意見や要望を伺っている。出された意見要望等は速やかに運営に反映させている。定期的に発信されるホームのおたよりに対して遠方にいる入居者の兄弟・姉妹から感謝の意が届いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	少なくとも月一回職員会議を開催し、意見交換している。	毎月月初に全職員参加による会議が開かれている。議題は前月の反省、ケアプランの見直し、入居者の状況の情報交換、勉強会などであり、充実した話し合いや報告が行われている。職員の意見や提案は運営やサービス向上に活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員会議に参加したり契約更新時に要望を聞き職場環境の改善に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修には積極的に参加できるよう配慮し、職員会議にて1人1人のスキルアップを心がけている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会の会員として交流会、勉強会に参加し、情報交換しながらサービスの向上につなげている		

グループホーム大地

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員会議で話し合い、共通の認識をもって、チームケアに取り組んでいる		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所までになんども話し合いをさせていただき、家族の方の介護に対する思いに共感する		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人がどのように暮りたいかそのために必要な支援は何かを考え、インフォーマルなサービスも念頭に多角的にとらえていく		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ゆっくり、のんびり、一緒に、をモットーに、畑作り、食事作りを共に協力しながら行っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には家族水入らずの環境を提供できるようにしたり、帰宅する時は日頃の様子を伝え、家族の方が戸惑わないよう配慮している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出や近所の方々の面会の機会を多く持てるよう、地域の行事にも積極的に参加できるようにしている	親戚や身内が集まるお盆やお正月に自宅に帰ったり、兄弟・姉妹の訪問を受けたりしている。家族と電話で連絡を取り合う入居者もあり、大切な人達との関係が継続できるよう支援している。入居前の隣組の食事会に誘われる入居者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個性を尊重するとともに、利用者同士の相性も考慮しつつ、ひとりひとりが孤立しないよう心がけている		

グループホーム大地

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されたあともお見舞いや面会に行きこれまでの経過を話したり、家族の力になれるよう関係を続けている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や家族からの情報を取り入れながら1人1人の思いを大切に暮せるよう支援している	入居前の家族からの聞き取りや入居後の本人の様子から汲み取るようにしている。職員は運営理念の一つ「常に優しいまなざしと想像力、観察力、洞察力を使って行動します」を実践に移しながら一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族本人からの話し、前施設からの情報をもとに職員は想像力、洞察力をもって把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人の生活リズムに合わせたサービスが提供できるように努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	長期目標6ヶ月、短期目標3ヶ月をめどに本人、家族の要望を入れながら話し合い、計画を立てている。	入居者、家族の意向を基に話し合い、自立した生活が営むことが出来るよう個別のサービス計画を作成している。定期的及び変化に応じ適宜、見直しと評価を行い、本人の状況に合わせたサービス計画にしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の話したことを記録の中入れ、観察力、洞察力、想像力を駆使しながら意見を出しあい、見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族、主治医と連携を取りながら、ホームでの生活が持続できるよう、ニーズに合わせて対応できるよう取り組んでいる。		

グループホーム大地

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	フォーマル、インフォーマルサービスを区別することなく、地域に溶け込めるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	指定協力医院として契約を結び、受診・往診・休日の対応ができるようになっている。本人、家族の希望によりこれ以外の医療機関も受診できるよう対応している。	通院や受診は家族にお願いしているが都合がつかない場合には職員が付き添っている。医師の往診や月2回の訪問看護以外にも口腔ケアに関して歯科の往診もあり、必要な時に必要な医療が受けられる体制となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職はいないが、指定協力医院の看護師さんが相談にのってくれ、協力してくれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院・退院時は、医師やケースワーカーと連絡を密に取り合いながら、特に退院後の生活の留意点などを相談できるよう関係をつくっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在は終末期ケアを行っていないが、職員の意識・技術の向上を目指し、医療、家族の協力を得ながら支援できる方向へもっていきたい。	入居時には入居者、家族に重度化や終末期に関する指針を説明している。看取りに関する研修会に参加を予定しており終末期ケアに関して前向きに話が進められている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年一回は行っているが、今後は定期的に実施し、全職員が実践力を身につけられるよう努力したい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行い、職員は持ち場、役割分担を常に頭に入れておく。日頃より地域の人との交流を図り、いざという時の協力体制を築いている。	村内全戸に防災無線が設置されており、ホームにも備え付けられ、万が一の場合に情報が伝えられるようになっている。非常通報装置の設置については現在検討中である。防災訓練は消防署の指導を受け、春と夏の年2回実施している。	

グループホーム大地

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本的人権の尊重・プライバシーの確保に関する勉強会を開催し、職員の意識の向上を図るとともに接する態度、言葉使いには充分注意するようにしている。	入居者と接する日常での馴れ合いや親しみから、気がつかないうちに入居者の人格を無視したり、プライバシーを損ねることのないよう確認し合っている。職員は入居者と目線を合わせながら南信州ならではの独特の柔らかい言葉で支援していた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に待つ姿勢で利用者さんと接するよう心がけている。また言葉使いや声がけのタイミングに留意し、本人の意思決定を促すよう対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人のその日の気分や体調等を考慮しながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で選べる人は好みで選んで頂いている。美容院は希望される時にお連れしたり、美容師さんに来てもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に台所に立ち、おしゃべりしながら準備や片付けをしている。	食事が楽しみになるように食事作りや食材の買い物に入居者も係っている。好物のおしゃべりに花が咲き、一人の入居者の「ここのご飯はうまいに〜」「食べていきな」と誘ってくれた言葉に他の入居者の方々も一緒にうなずいていた。昼食時に誕生会の特別メニューや行事食を取り入れることが多い。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスの摂れた食事が提供できるよう、1週間単位で献立を立てている。1日当たりの水分摂取量を記録し好みの物が摂れるよう工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	できるだけご自分でしていただけるよう支援している。歯科医の訪問診療を利用しながら、定期検診を行っている。		

グループホーム大地

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を記録に残し、1人1人のパターンを把握して、声がけによる支援を行っている。	排泄パターンを活かしながらトイレでの排泄支援を行っている。失禁などが確認されたときにはその都度検討している。排便に関しては入居者の不安な気持が生じないように確認や話し合いが密に行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の記録を取り、リズムを把握するとともに、乳製品、果物なども取り入れ、便秘の予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1人1人の希望に沿って入浴して頂いている。夕食後は、職員の配置の関係で入浴できない点は、今後の課題である。	入浴は毎日可能である。一番風呂を希望する入居者が多いので一番風呂だけ順番が決められている。嫌がる入居者はいない。職員に見守られながら入浴する入居者は気分が良いのか湯ぶねにっかりながら盛んにおしゃべりしてくれると伺った。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人1人のペースに合わせて、居室やソファなど好きな場所、好きな時間に休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、処方された薬について理解しており、服薬の管理や症状の変化には、速やかに主治医に相談し、その指示を受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事・畑仕事等に参加することにより、必要とされる存在であると感じてもらえるよう支援している。散歩・ドライブ・リラックス体操なども取り入れ、気分転換できるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出には、一緒に歩いたり、車を使ったりと希望に合わせて行っている。家族の方には、地域の夏祭りに参加できるよう、協力をお願いしている。	住宅地や商店街から離れているので外出は何時も車である。春、夏、秋は行楽地に出かけている。日常的には近くの公園や敷地内を散策している。居間の前は広いベランダがありその先は芝生の庭となっており車椅子でも気軽に外気に触れることが出来る。	

グループホーム大地

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の了解を得て、本人が所持できるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は何時でも自由に使えることができるよう、手の届く場所に配置している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然の木材をふんだんに使った木の香りのする館内には、季節の草花が飾られ、台所からは、包丁を使う音が聞かれる雰囲気がある。	木がふんだんに使われている。手すりが壁と一体化しているからと区別し易いように蛍光テープをつけている。浴室の手すりにもテープが使われ、入居者の安全面に配慮がされている。食堂、居間は広いガラス窓を通して明るい日差しが差し込んでいた。入居者はソファや食堂の椅子に腰をかけ、談笑したり、作業やテレビ観賞などで過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの角には、ソファや畳のベンチがあり、思い思いの場所で寛げるよう工夫されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れた馴染の家具や家族の写真などを飾り、落ち着いて過ごせるようにしている。	畳の居室もあるが多くはフローリングとベッドの居室である。入居者の状態に合わせ滑り止めマットが敷かれ、安全に移動できるようになっている居室もあった。それぞれの入り口には区別しやすいように飾りタイルが埋め込まれている。一見して「私の部屋」と分かるように自分の持ち物がたんすやベッドの上に置かれ、壁には自らの作品や行事の写真が貼られていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全館バリアフリーの中、各部屋に表札をつけ、トイレ・お風呂場など解り易いように表示している。		